

土木学会四国支部「土木紀行」No.80(高知県)

「室戸ジオパーク」



写真1 タービダイト層

高知県東部の室戸市、そこは自然豊かで様々な文化が存在する地域である。それらの自然文化が評価され 2011 年 9 月に「世界ジオパーク」に認定された「室戸ジオパーク」。今回はその一部を紹介したいと思う。

まず、ジオパークって何？という人も多いだろう。ジオパークとは山や川をよく見て、その成り立ちとしくみに気付き、生態系や人間生活との関わりを考える場所である。足元の地面の下にある岩石から宇宙まで、数十億年の過去から未来まで、山と川と海と大気とそこに住む生物について考える、つまり地球を丸ごと考える場所、それをジオパークと呼ぶ。

室戸ジオパークでは室戸市のほぼ全域がジオパークとされており、中でも目を引いたのは特質な海岸地形や亜熱帯植物などがある室戸岬サイトと古き町並みが今なお残存する吉良川町並みサイトである。

まず、室戸岬サイトでは写真1に示すように、海水と混ざった流れによって降り積もった砂と泥の層であるタービダイト層や、約 1400 万年前、マグマが地層に貫入して固まったとされるビジャゴ岩、および国の天然記念物に指定され、



写真2 アコウの木

絞殺しの木という異名を持つアコウの木などを見ることができる。私は実際にその場所を散策してみたが、その部分だけ違う世界の中にいるような感覚に陥った。また、室戸岬は真言宗の開祖である空海（弘法大師）が修業し、悟りを開いた場所でもあり、いまなお、空海が寝泊まりした洞窟や修業した池などが残っており、自然の創造物を見ながら歴史的遺産を見るのもいいだろう。



写真3 石ぐろ

次に、吉良川町並みサイトを紹介する。江戸時代に良質の木炭の集散地として繁栄した吉良川は、主屋・蔵・いしぐろ等の伝統的建造物は地域色を良く示し、土佐地方の在郷町として特色ある歴史的景観を良く伝えており、そのため吉良川町は高知県で初めて、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。特色としては土佐漆喰を使った白壁と、台風などの強い雨風から町屋を守るために付けられた水切り瓦などがあり、他とは一風違った町並みが広がっている。これらの他にも珍しいものはいろいろあるが、詳しくは実際に訪れてガイドの説明を聞きながら町中を散歩するのもいいだろう。



写真4 水切り瓦となまこ壁

最後に、以上紹介したサイト以外を少し紹介させていただく。室戸ジオパークでは季節によって楽しみ方が変わってくる。2年に1度、5月に吉良川で行われる日本三大奇祭の一つ「御田祭」や、毎年10月の第2週に行われ、国や県の無形文化財に登録されている「佐喜浜にわか」などが開かれるため、ぜひそれらの時期に訪れることをお勧めする。他にも、室戸スカイラインの眺め、だるま朝日・夕日、イルカとの触れ合い、ホエールウォッチングなどもできるため、高知に来た際には東のほうに足を歩めて見てはいかがだろうか。

参考文献

1)：日本ジオパークネットワーク <http://www.geopark.jp/about/index.html>

2)：室戸ジオパーク <http://www.muroto-geo.jp/www/>

(高知高専専攻科 建設工学専攻 1年 福富隼人)

土木学会四国支部「土木紀行」 <http://doboku7.sakura.ne.jp/kikou/kikou.htm>

土木学会四国支部 <http://www.jsce7.jp/>